

町長と語る

町内のグループがさまざまなテーマで語り合う「町長と語る」。

7月7日(水)にJAふらの青年部上富良野支部と「農業に関する課題」をテーマに実施。7月20日(火)には、上富良野高校3年生が地域探究活動のまとめとして「地域探究提言発表会」を行いました。

7月7日(水)

JAふらの青年部上富良野支部

農業が抱える課題について

青年部

①高齢化の進行や後継者不足による離農や世代交代などを機に、急速な農地の流動化が進み、規模拡大が今後一層進むことが予想される

②傾斜地、土質・排水不良などの条件不良ほ場が散見される

③農地に隣接する宅地の増加に伴い臭



気・騒音、肥料・農薬散布に対する苦情、農作業機による道路汚損に対する苦情の発生増加

④鳥獣害の増加

町長 世代交代などを機に規模拡大が進んでいくことはその通りだと思う。規模拡大の限界が見えてきている農家もある。大規模化で耕作条件が悪い土地は取り残されていく。耕作放棄地をつくらないよう、農業者を確保しなければならぬ。近年、農地と宅地が近くなり、年に数件、臭気の苦情が入っている。一時的な

ものだと説明し、大きな問題になっていない。鳥獣の被害ではアライグマが増えている。ハンターが少なく、ハンターの確保が課題である

青年部 スマート農業が進んでも、人の確保が必要。新規就農者や農業

ヘルパーに対しての補助はあるか

町長 後継者と新規就農者に対しての補助がある

青年部 町おこし協力隊を活用し、農業に興味がある方に耕作体験してもらい、後々法人化してもらつと、定住にもつながるのでは

町長 他町で町おこし協力隊を活用している事例もある。3年経過後に農地が無かったら、新規就農してもらいたくても、タイミングが合わない可能性がある。本格的に流動化し始めてからの対策として考える

農業振興方針・方策について

青年部 郡部に光回線が通ることです、

スマート農業が増えてくる。現在、農協のアプリを使用して機械を動かしている。町の助成があると助かる

町長 国の補助制度を活用しながら、皆さんの意に沿うよう進めていきたい

青年部 道の駅に限らず複合的な施設を将来作るのか

町長 公約にも掲げている。農産物に限らず、加工品、ラベンダー製品も



含め、地場産品を購入できることを作りたい

青年部 仮に道の駅ができて、多くの方が来ると新たな問題も発生する。ごみ問題や畑に勝手に入ってくるなど、解決策が見えているものはある

か

町長 先進地を参考にしながら、対策を考えていく

青年部 フェリーで道外に行くことがある。電光掲示板でPRしている市町村もある。上富良野を知ってもらう機会になるのでは

町長 町のPRについては、数ある媒体を駆使して、SNS、ホームページはもちろんだこと、雑誌、道の駅など効果的だと思うものはどんどん取り組みたい